

## 令和8年度入学式 学長式辞

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。ようこそ、鹿児島国際大学へ。学校法人津曲学園、鹿児島国際大学、鹿児島国際大学大学院の全教職員を代表して心から歓迎申し上げます。

この大学を運営する学校法人津曲学園は、3年前の令和5年（2023年）に創立100周年を迎えました。大正12年（1923年）に創立者津曲貞助が、学びへの意欲はあってもその機会に恵まれない若い女性たちのために旧制の高等女学校を設立したのが、津曲学園の始まりです。その後、昭和7年（1932年）には、本学の前身である旧制の高等商業学校を設立するなど、時代の変化と地域の要請に応じて各種の学校を整備し、今日までに、鹿児島国際大学、鹿児島国際大学大学院に加え、鹿児島高等学校、鹿児島修学館中学校・高等学校、鹿児島幼稚園を運営する一大学園へと成長しました。今日、この学びのコミュニティに加わってくださったみなさんとともに、先人たちが大事に育ててきたこの学園と大学の新しい歴史をかたち作っていくことを楽しみにしています。

さて、近年、「貯蓄から投資へ」や「資産所得倍増」といった威勢のいいスローガンで、投資が奨励されています。日々、様々なモノやサービスの値段がどんどん上がっていくこのご時勢です。すぐに使う当てがない余裕資金があれば、おカネに働いてもらって、保有する資

産の価値を防衛し、あわよくば少しでも殖やしたいと願うのはごく自然なことです。投資と言えば、経済的に余裕のある中高年の男性が熱心に行っているイメージがありますが、最近は若い人たちの間でも、NISA や iDeCo といった制度を利用し、少額から投資を始める人がだんだん増えてきているようです。

本学でも、株式会社鹿児島銀行様と株式会社野村証券鹿児島支店様のご協力を仰ぎ、現場で活躍する実務家をゲスト講師として招聘して、金融リテラシー教育に取り組んでいます。今年度は後期に「教養特講 I」として開講される科目がそれです。もちろん、教育機関として学生のみなさんに投資を推奨しているわけではありません。しかし、私たちが日ごろ目にする SNS 上でも、人の財産を狙うずる賢い詐欺師たちが、有利な投資のチャンスに見せかけた罠を張って待ち構えている時代です。そのような犯罪の被害者にならないためにも、投資に関する正しい知識を身につけることは望ましいことですので、新入生のみなさんにも、機会があれば、ぜひ履修していただきたいと思います。

先日、鹿銀と野村証券のかたがたと金融リテラシー教育について意見交換をする機会があったのですが、その席で、大学生をはじめとする若い人たちに自信をもってお勧めできる、最も有利で確実な投資は何だろうという話になりました。この点では、全員の意見が一致したのですが、それはどんな投資だと思いますか？

それは教育という投資、つまり「人への投資」です。どんな株式や投資信託や債券よりも、教育を受けること、受けさせることで、人を成長させ、その能力を開発することこそが、最も確実かつ有利な投資であるという点で、金融、証券のプロの意見も一致したのです。

つまり、みなさんは大学もしくは大学院に進学することで、実はすでに「投資」をしているということです。授業料をはじめとする学費を原資として、学部の場合は4年間という時間をかけて、実は大きな「人への投資」をしているということになります。これだけのコスト（費用）を払うことで期待されるプロフィット（利益）は、より高い賃金といった経済的なものばかりではありません。より大きなやりがいと明るい将来ビジョンが持てる仕事について、もっと自分らしく、もっと充実感をもって人生を歩み始めること——卒業、修了時にそんなリターン（収益）があれば、この「投資」は成功だったと言えるでしょう。

金融機関や証券会社を取り扱う証券や債券への投資と「人への投資」とでは、大きな違いがあります。証券や債券の場合は、同じ銘柄を同時に同額購入して同じ期間保有すれば、誰でも同じだけ得をしたり損をしたりするでしょう。人によって結果が変わってくるというようなことは考えられません。しかし、教育の場合は、同時に同じ学校に学んでも、その成果は千差万別です。教員として学生と接していても、同じように学んでいても「伸びる人」と「そうでもない人」に分かれていくことが見てとれます。その違いはいったい何なのでしょう  
か？

そんなことを考えながら、ふと手にした新聞の投稿欄を眺めていると、ある高校生の投稿に目が留まりました。高校生といっても、年齢は18歳とのことですので、この春、大学生になっておられるかもしれません。「朝日新聞」(2026年2月3日)に掲載された、奈良県の富永菜花さんの投稿です。

富永さんは投稿を「<sup>ウォーブーシーシューツァイ</sup>我不是蔬菜」という中国語で書き出しています。「私は野菜ではない」という意味だそうです。学校の授業で「中国語で自分の名前をどう読むか」を調べるという課題が出て、ネットで調べたところ、自分の名前「菜花」が中国語では「カリフラワー」という意味であることを初めて知り、とても驚いたそうです。

ここから私がとても感心したところなのですが、彼女は、「これをきっかけに中国語に興味を持ち、中国語の勉強を続けることにした」そうです。中国語で自己紹介するときに、「私は野菜ではありません」という説明を加えたら、中国語圏の人たちはきっと笑顔になるだろうと考えたのでしょう。「我不是蔬菜」という表現をまず覚えたようです。「まだ自己紹介や少しの会話しかできないが、『自分が野菜ではないこと』は伝えられるようになった。次は『自分の名前が春の訪れを表す菜の花から来ていること』を伝えられるようになりたい」と意気込んでいます。

富永さんと同じように、自分の名前を中国語でどう読むかを調べた同級生はたくさんいたでしょう。しかし全員が、富永さんのように中国語に興味を持って学び始めたわけではないはずです。富永さんにしても、自分の名前が中国語では「カリフラワー」という意味であるという小さな発見がなければ、中国語を学び始めることにはならなかったかもしれません。おそらく誰にとっても、新しい学びへの扉は至るところにさりげなく準備されているのですが、たまたまその前に立ち止まった時、その扉を押し開けて新たな学びの世界へと入っていくかどうかは、その人次第なのです。

富永さんの投稿はこのように結ばれています。「名前のおかげで学びたいことが見付き、素敵な名前をつけてくれた親にとっても感謝している。こんな理由だとは思わないだろうけど」。行間から、好奇心、プラス思考、素直さ、ユーモア感覚など、書き手の人柄が生き生きと浮かび上がってきます。これらはいずれも、よき学習者になるために私たちがぜひ持っていたい資質です。

富永さんのような姿勢で日々を送っていたら、どんなに楽しいだろうと思いませんか？ 私自身も、ぜひ見習いたいと思いました。これから新しい学びの世界へと入っていくみなさんにもヒントになればと思い、紹介しました。

大学・大学院での学びは、自分自身への「投資」と申しましたが、証券や債券の投資

との違いがもう一つあります。それは、成果に到達するまでのプロセスに様々な喜びや充実感を味わえるということです。冨永さんのように、新たな学びの世界に軽やかに飛び込み、学びそのものを楽しめる人は、学習者として無敵です。みなさんにも、そんな楽しみを、ここ鹿児島国際大学・鹿児島国際大学大学院で存分に味わってほしいと思います。教職員一同、みなさんの学びの旅路に寄り添い、心を尽くして成長を手助けします。

結びに、みなさんに、心からの「おめでとう」を重ねて申し上げ、入学式の学長式辞といたします。

令和8年4月6日

鹿児島国際大学学長 小林 潤司